

# 実践のまとめ（第6学年 外国語科）

上越市立稲田小学校 教諭 平原 和泉

## 1 研究テーマ

### 相手意識をもち、伝えたいことを伝え合うことができる表現力の育成 ～『聞く』活動と『話す』活動を連動させる場の工夫～

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

音声でのやり取りを中心とする実際のコミュニケーションの場では、「聞くこと」だけ、「話すこと」だけ、といった単一の領域の能力が求められているものではなく、相手の話すことを聞いて自分の考え述べる、相手の話すことを聞いてさらに詳しく尋ねるなど、複数の領域を同時にバランスよく発揮することが必要となる。そのためには、これまでの経験を生かして類推しながら「聞くこと」と、相手が話していることを理解したうえで、英語の既習内容を生かして即興的に「話すこと」の場を設定することが重要である。

そこで本研究では、聞いている内容が全て分からなくとも、キーワードから内容を類推しながら「聞く」活動を充実させる。さらに、聞き取ることができた語句や表現を繰り返し練習し「話すこと」への興味や自信につなげることで、既習内容を活用してコミュニケーションを広げながら「話すこと」ができる授業づくりを目指す。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① Teacher's Talkを用いた「聞くこと」の活動の充実

児童が自信をもって「話すこと」ができるには、「聞くこと」を通して基礎的な語句や表現を蓄積していくことが必要である。そこで、対話を続けるための基本的な表現を身に付けるために、Teacher's Talkを毎時間設定する。Teacher's Talkでは、初めに教師のモデルを繰り返し3回以上聞かせ、児童が話している内容を理解できるように①速さ、②視覚的情報、③理解度の確認の工夫を行う。①は、話す速さを「普通→少しゆっくり→ゆっくり」と変える。②は、視覚的情報を「なし→ジェスチャーあり→ジェスチャーと絵カードあり」と段階的に示す。こうして、教師のモデルを3回繰り返した後に、③で、内容の理解度の確認として「普通の速さ、視覚的情報なし」で場面を区切り、内容を確認しながら聞かせる。これらの工夫によって、児童が「理解できた」と達成感を感じられるようにする。この「聞くこと」の活動で得た語句や表現を「話すこと」に生かせるように、さらに、毎時間Teacher's Talkの長さや語句を増やし、聞き取った後に児童同士でのSmall Talkを行うことによって、語句や表現の蓄積を図る。「聞くこと」ができた内容は、話してみたいという意欲につながると考える。そのため、より多くの語句や表現を知りたいと興味をもって「聞くこと」に臨む姿を育て、「話すこと」へつなげていく。

#### ② 自分の伝えたいことを思考する活動の充実

自分のことを伝える必然性を生むために、まず伝える目的をはっきりさせ、誰に何を伝えるのかを明確にすることが必要である。「どのような内容を」「どのような表現で」「どの程度」やり取りができるようになればよいのか、児童が見通しをもって活動に取り組めるように、基本的な語句や表現を学習した後、児童とともにルーブリックを作成する。その後、クラスの友達とのやり取りの場を計画的に設け、個のめあてをもたせ、対話に取り組ませる。めあてに向かって、自分の伝えたいことや相手が知りたいと思うことを

精選し、日本語から英文を考えるのではなく、伝えたい内容を表現する音声として表出する場を設け、思考しながら「話すこと」に取り組むことができるようにする。

③ 既習内容を振り返るためのICT活用

自分の伝えたいことを思考するためには、伝えたい内容を明確にするとともに、それを伝達するための表現方法を考える場を確保することが必要である。そのために、児童が知りたい表現を調べたり、これまでの学習を振り返ったりする場を設ける。そして、iPadのボイスメモに、分かった表現や既習の語句や表現を、児童自身が音声として記録して蓄積し、言語活動で活用できるようにする。このボイスメモでは、その時自分に必要な語句や表現を音声で確認しながら精選していくよう指示する。さらに、やり取りや発表に必要な情報を、Jamboardアプリを活用し視覚的に分かりやすくまとめることで、伝えたい内容を構想できるようにしていく。

(3) 研究テーマにかかわる評価

次の2つの観点から評価を行う。

- ① 友達との「やり取り」や友達の「発表」を聞く際にTeacher's Talkの場を計画的に設定することで、相手が話していることを理解することができた と評価する児童が80%以上になる。  
(ワークシート、振り返りシート)
- ② 「やり取り」や「発表」で、音声ツール等を活用し、自分が伝えたいことを伝えることができるようになった と評価する児童が80%以上になる。  
(Jamboard、やり取りの様子、Web会議システムを利用した発表の振り返りシート)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Unit 6 小学校の思い出 (Blue Sky elementary 6 啓林館)

(2) 単元の目標

「小学校の思い出」という共通のテーマに基づき、相手の学校行事の思い出について具体的な情報を聞き取ったり、自分の学校生活の思い出を相手に伝えるように内容を整理したうえで、自分のしたことや感想などを伝えたりすることができる。また、相手の情報に対して即興的に自分の考えを伝え合うことができる。

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt; 学校行事の言い方や、小学校の思い出の尋ね方、過去形を用いた思い出や感想の答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 学校行事の思い出や感想など、具体的な情報を聞き取る技術を身に付けている。</p>	相手の学校行事の思い出について具体的な情報を聞き取っている。	相手の学校行事の思い出について具体的な情報を聞き取ろうとしている。
(やり取り/発表)話すこと	<p>&lt;知識&gt; 【同上】</p> <p>&lt;技能&gt; 学校行事の思い出について、したことや感想などを伝え合う技術を身に付けている。</p>	小学校の思い出について、相手に伝えるように話す内容を整理して自分のしたことや感想を伝えたり、相手の情報に対して自分の考えを即興的に判断して伝え合ったりしている。	小学校の思い出について、相手に伝えるように話す内容を整理して自分のしたことや感想を伝えたり、相手の情報に対して自分の考えを即興的に判断して伝え合ったりしようとしている。

#### (4) 単元と児童

本単元は、Unit 4「夏の思い出」、Unit 5「週末のできごと」に続く単元であり、過去形のまとめとして授業を展開していく。Unit 4から蓄積してきた過去形の表現をさらに増やし、第1次では「聞くこと」と「まねる」ことを重点的に行う。繰り返しTeacher's Talkを聞き、表現に対して十分に慣れたのちに「やり取り」へとつなげていく。Teacher's Talkを繰り返すことで「自分の小学校の思い出を伝えたい」と意欲が高まったところで、他校の6年生とリモートで発表し合うことを単元のゴールとして伝える。第3次以降の「やり取り」では、相手の反応を確認しながら自分の思い出を伝えることができたか、相手の思い出を聞き取ることができたか、その都度振り返りを行う。前単元までに、全員が相手の発表に対して「予め」考えておいた質問する「やり取り」は達成できた。そこで、本単元では、伝えたい自分の思い出をJamboardにまとめたものを手掛かりに、話していることが伝わっているか確認したり、相手の話に反応したりしながら「即興的」に友達との「やり取り」する終末のゴール、他校との「発表」へとつなげていく。

本学級は、男子15人、女子15人、計30人が在籍している。外国語の授業は好きではあるが、「話すこと」に苦手意識を持っている児童が多く見られる。それは、「聞くこと」の活動の時間が十分でないために、「話すこと」の準備（レディネス）まで到達していないことや、「話してみたい」と感じる課題設定の工夫が不十分であることが原因だと考えた。そこで、「聞くこと」の活動にじっくりと取り組み、興味を持てるような単元構成を行ってきたことで、コミュニケーションを取りたいと思う児童が見られるようになってきた。また、Unit 4から学習している過去形に関して、不規則に変化する動詞があることに気づき、よりたくさんの「過去形」を知り、使ってみたいという意欲が高まってきている。しかし、実際の「やり取り」の場面では、基本的な語句や表現を、一方的に相手に伝えるだけに終始してしまう児童が少なくない。本単元では、他校の6年生と交流するという場面を明確にし、友達と質問し合いながら「やり取り」を行う。そこから、相手の話を「聞きたい」、自分のことを「伝えたい」という確かな願いをもって、楽しみながら「発表」に取り組む姿を期待する。

#### (5) 単元の指導計画と評価計画（全8時間、本時6／8時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (2)	<ul style="list-style-type: none"><li>学校行事を表す語句を推測、確認する。</li><li>学校行事の思い出について会話を聞く。</li><li>学校行事の思い出について尋ねたり答えたりする表現をまねる。</li></ul>	◎小学校行事の思い出について聞き取ろう。	※本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
2 (2)	<ul style="list-style-type: none"><li>学校行事でしたことや感想を聞き、意味や語順について確認する。</li><li>自分が思い出の学校行事でしたことや感想を言い、その内容をなぞり書きする。</li></ul>	◎自分の学校行事の思い出を話そう。	

3 (2) 2/2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の思い出についてやり取りを行う。</li> <li>・小学校の思い出を聞き取り、感想を伝える。</li> <li>・小学校の思い出を分かりやすく伝えるために必要なことを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎小学校の思い出やその感想について伝え合おう。</li> <li>◎小学校の思い出を分かりやすく伝える工夫を考えよう。</li> </ul>	<p><b>知・技</b></p> <p>学校行事の思い出や感想など、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりしている。</p> <p>【行動観察・ワークシート・振り返りシート】</p>
4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の6年生と、Web会議システムを利用した発表をする練習をする。</li> <li>・他校の6年生とWeb会議システムで発表をしよう。</li> </ul>	◎糸魚川市立田沢小学校の6年生と小学校の思い出について伝え合おう。	<p><b>思・判・表</b></p> <p>小学校の思い出について、相手に伝わるように話す内容を整理して伝えたり、相手の情報に対して即興的に判断して伝え合ったりしている。</p> <p>【Jamboard・振り返りシート】</p> <p><b>主体的</b></p> <p>小学校の思い出について、相手に伝わるように、話す内容を整理して伝えたり、相手の情報を具体的に聞き取り、自分の考えを即興的に判断して伝え合ったりしようとしている。</p> <p>【行動観察・振り返りシート】</p>

#### 4 本時の展開

##### (1) ねらい

- ・学校行事の思い出について、経験したことやその感想など具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりしている。

**知識・技能**

##### (2) 展開の構想

本時では、前時まで学習した学校行事の思い出の語句や表現を聞き取ることを通して、相手に分かりやすく伝えるために、工夫することを考える。その足掛かりとして、担任とALTが2パターンのTeacher's Talkのやり取りを示し、工夫すべき視点（話の内容の確認、反応等）を明確にする。そこから、それぞれの児童が一番伝えたい内容を分かりやすくするためにできる工夫を考える。終末では、相手の話していることが聞き取れたか、工夫した表現を活用して自分の伝えたいことが伝わったか振り返りを行い、次時の発表へとつなげる。

##### (3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
(15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニティーチャーに続いて挨拶する。</li> <li>○前時まで学習した語句や表現を視覚的情報とともに復習しよう。</li> </ul>	○既習の表現を掲示する。
(5)	・Teacher's Talk	○Teacher's Talk 担任とALTの小学校の思い出	◇相手の反応なしと、ありのパターンの2回に分ける。

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">         小学校の思い出を分かりやすく伝える工夫を考えよう。       </div>		
(20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任とALTのやり取りを見て、分かりやすく伝えるために必要なことを考える。</li> <li>・自分が一番伝えたことを分かりやすくするために、必要な情報をJamboardにまとめ、友達とやり取りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の思い出が分かりやすく伝わる視点を確認しよう。</li> <li>●話し手が、確認しながら話をするとい。</li> <li>●聞き手も、反応を示すとい。</li> <li>○分かりやすく伝わる視点を基に、やり取りを行い、感想を伝え合おう。</li> <li>●Jamboardを見せながら話してみよう。</li> <li>●伝わるようにジェスチャーを入れてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○反応や相槌の表現を掲示する。</li> <li>○Jamboardにメモを付け加えるよう伝える。</li> <li>○なるべく即興的に反応するよう促す。</li> <li>◇やり取りが進まないペアには、補助を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">知・技</div> <p>学校行事の思い出や感想など、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりしている。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・振り返りシート】</p>
(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分かりやすく伝えるために工夫したことを記入するよう促す。</li> </ul>	

#### (4) 評価

- ・学校行事の思い出や感想など、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりしている。

【行動観察・振り返りシート】

## 5 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

本単元では、前単元までの積み重ねを生かして、使える過去形の語句を増やし、ジェスチャーを交えたり、実際の写真を共有したりしながら「即興的」なやり取りと発表を行った。さらに、写真と語句のメモを手掛かりに、英文を見ずに思考しながら話すことを目指した。当初は発音や文の組み立て方が分からなくなり戸惑う児童も見られたが、その都度、ボイスメモで振り返る時間や児童同士で確認する時間を設けたことで、積極的にやり取りを行う姿が見られるようになった。

特に、伝えたい思い出をJamboardにまとめたものを手掛かりにやり取りを行った場面では、相手を見ながら話すために、少しずつメモの付箋を減らし写真のみでやり取りを行う児童や、分かりやすくするために感想としたことを交互に話す工夫をする児童など、より相手を意識したやり取りを目指す姿が多く見られた。

また、他校との発表に向けた練習では、自然とグループの友達で意見を出し合い、自分たちの発表を動画撮影して確認し合ったり、「Good job!」「話す速さが丁度よくて分かりやすかったよ」などとフィードバックをし合ったりする姿が見られた。

### (2) 研究テーマに関わって

#### ① Teacher's Talkを用いた「聞くこと」の活動の充実

毎回の授業で「聞くこと」に取り組めるように、Teacher's Talkを必ず実施した。Teacher's Talkでは、新出語句や表現に気付き、新しい語句や表現をもっと知りたいという意欲を高めるために、聞き取ったことを確認する時間を設けたり、視覚的にも分かるように英単語が書かれた絵カードを使用したりした。また、Teacher's Talkの内容に慣れてきてからは、内容だけではなく、「話し手」と「聞き手」の伝え合おうとする姿勢の重要性に気付くことができるような内容へと切り替えた。これにより、児童の振り返りシート

では、「Teacher's Talkをくり返し聞いたことで、思い出の学校行事について聞き取ったり、伝え合ったりすることができた」の問いに対して、肯定的な答えが100%であった。

## ② 自分の伝えたいことを思考する活動の充実

第3次から、iPadのアプリJamboard（図1）の、写真を手掛かりに、どのような語句や表現を使ってやり取りを行うのかを思考し、それを見ながら実際に友達とやり取りを行った。「話し手」は相手が理解しているか確認すること、「聞き手」は相手に伝わっていることを示す反応をすることを意識して繰り返しペアワークを行ったことで、相手意識をもちながらやり取りを行うようになった。さらに児童とともにルーブリックの作成を行ったことで、個のめあてを明確にすることができ、自分のめあてに向かって工夫しながらやり取りする姿が多く見られた。他校との発表後の振り返りでは、このルーブリック（図2）を基に児童の自己評価と教師による評価のすり合わせが可能となり、児童が次の単元へ向けた課題を意識することにつながった。

Unit 6: I enjoyed school. 小学校の思い出について話そう。



図1 作成した思い出の写真と表現

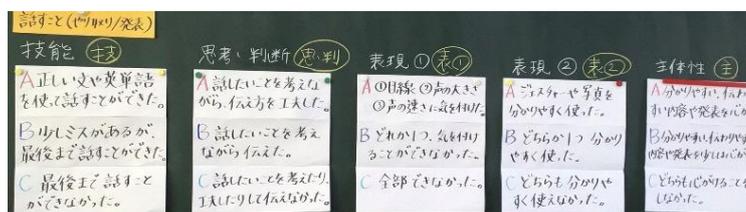


図2 実際の授業でのルーブリック（板書）

## ③ 既習内容を振り返るためのICT活用

第2次では、自分の思い出について日本語で想起し、既習内容を駆使してSmall Talkを行ってみたが、振り返りシートには「単語を調べたけれど発音が分からない」「どうやって文にしたらよいのか分からない」という記述があった。そのため、第3次では、Teacher's Talkの後、繰り返し語句や表現の練習を行った上で、児童それぞれがiPadのボイスメモに過去形や表現の録音を行った。そうすることで、個々で語句や表現の確認ができるようになり、活発なやり取りへとつなげることができた。第3次の振り返りシートでは、「ボイスメモやジャムボードを使って、思い出の学校行事について伝え合ったり、感想を言ったりすることができた」の問いに対して、肯定的な答えが100%であった。自信をもってやり取りする姿が見られるようになった。

## (3) 今後の課題

本実践では、「聞くこと」と「話すこと」の連動を目指し、Teacher's Talk、ルーブリック作成、ICT活用の3つの手立てにより、「知識及び技能」の定着と「思考力、判断力、表現力等」の伸長を図ることを重点に授業を実践した。その結果、「主体的に学習に取り組む態度」が培われてきたと考える。今後も、育てたい力を明確にした上で必要な手立てを講じ、継続的に言語活動に取り組んでいく。

### <参考文献>

文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語」開隆堂出版株式会社  
 国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
 小学校 外国語・外国語活動』

山田誠志（2018）『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業－使いながら身に付ける英語教育の実現－』株式会社日本標準

金森強・本多敏幸・泉恵美子（2017）「主体的な学びをめざす小学校英語教育－教科化からの新しい展開－」教育出版株式会社